

# 令和6年度第2回 インターネット都政モニターアンケート

「地震や洪水等による大規模災害に関する意識について」

## 調査結果



## 調査実施の概要

- 1 アンケートテーマ  
地震や洪水等による大規模災害に関する意識について
- 2 アンケート目的  
首都直下地震や洪水等による大規模災害に対する意識や要望等を把握し、今後の都の取組を検討する。
- 3 アンケート期間  
令和6年8月1日（木曜日）から8月8日（木曜日）まで
- 4 アンケート方法  
インターネットを通じて、モニターがアンケート専用ホームページから回答を入力する。
- 5 インターネット都政モニター数  
500人
- 6 回答者数  
490人
- 7 回答率  
98.0%

# 地震や洪水等による大規模災害に関する意識について

## 1 調査項目

- Q1 大地震に関する認知度
- Q2 大規模水害に関する認知度
- Q3 避難場所の認知度
- Q4 備蓄物資の有無
- Q5 都市の事前復興に関する認知度
- Q6 都市の事前復興への参加意欲
- Q7 居住期間
- Q8 現在の住まい
- Q9 世帯構成
- Q10 被災後の仮移転先
- Q11 復興後の居住先
- Q12 都市復興に求める要素
- Q13 都市復興で求めるまちの具体像
- Q14 高台まちづくりの認知度
- Q15 自宅の浸水想定
- Q16 高台への移転に関する意識
- Q17 水害発生時の自宅避難の意識
- Q18 高台上面の活用方策
- Q19 効果的な普及啓発の方法
- Q20 事前復興や高台まちづくりについて（自由意見）

		モニター 人数	回 答		
			人 数	構 成 比	率
全 体		500	490	-	98.0
性 別	男性	250	244	49.8	97.6
	女性	250	246	50.2	98.4
年 代 別	18・19歳	10	9	1.8	90.0
	20代	70	68	13.9	97.1
	30代	76	75	15.3	98.7
	40代	90	89	18.2	98.9
	50代	87	83	16.9	95.4
	60代	60	60	12.2	100.0
	70歳以上	107	106	21.6	99.1
職 業 別	自営業	34	34	6.9	100.0
	常勤	239	232	47.3	97.1
	パート・アルバイト	47	46	9.4	97.9
	主婦・主夫	76	75	15.3	98.7
	学生	30	29	5.9	96.7
	無職	74	74	15.1	100.0
居住地域別	東京都区部	344	337	68.8	98.0
	東京都市町村部	156	153	31.2	98.1

※ 集計結果は百分率 (%) で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、合計が100.0%にならないものがある。

※ n (number of cases) は、比率算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。

※ 複数回答方法・・・(MA) =いくつでも選択、(3MA) =3つまで選択、(2MA) =2つまで選択

首都直下地震が発生すると、揺れによる全壊被害は、東京都内で8万棟に上るなど、甚大な被害が発生することが想定されています。

また、近年の急激な気候変動に伴い、今後、気温上昇と降雨量の増加が見込まれており、風水害の激甚化につながるおそれがあります。

都は、首都直下地震や洪水等による大規模な災害が発生した場合に、迅速かつ計画的な都市復興を実現できるよう、都市の事前復興の取組を進めているほか、大規模水害が発生しても、命の安全・最低限の避難生活水準を確保できる避難場所にもなる高台を整備するため、「高台まちづくり」を推進しています。

今回のアンケート調査では、今後の施策推進の参考とするため、首都直下地震や洪水等による大規模災害に対する意識や要望等、都政モニターの皆さまのご意見をお伺いいたします。



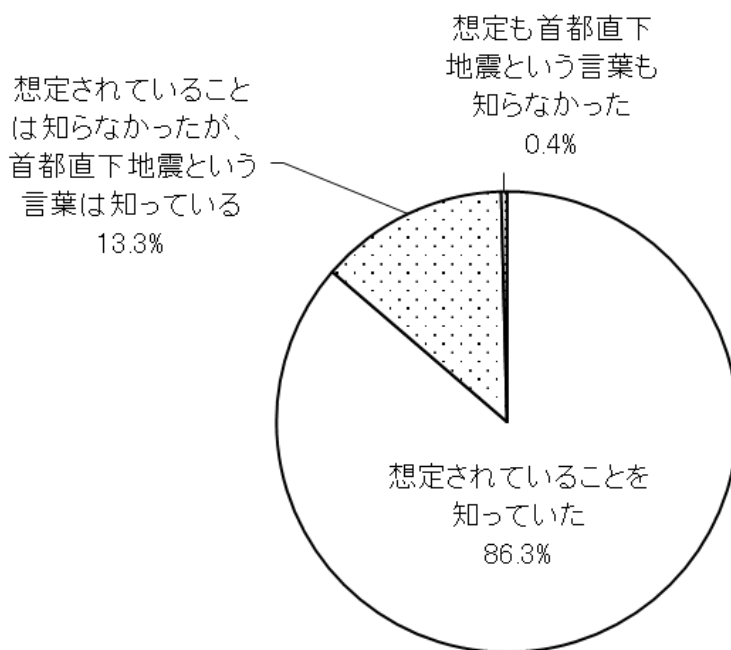
高台公園を中心とした  
高台まちづくり

## 大地震に関する認知度

Q1 マグニチュード7クラスの首都直下地震が、今後30年以内に70%程度の確率で発生すると想定されています※。あなたはこのことについて、知っていましたか。

※ 参考：「首都直下地震等による東京の被害想定 報告書」（東京都防災会議、令和4年5月）  
<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/taisaku/torikumi/1000902/1021571.html>

(n=490)

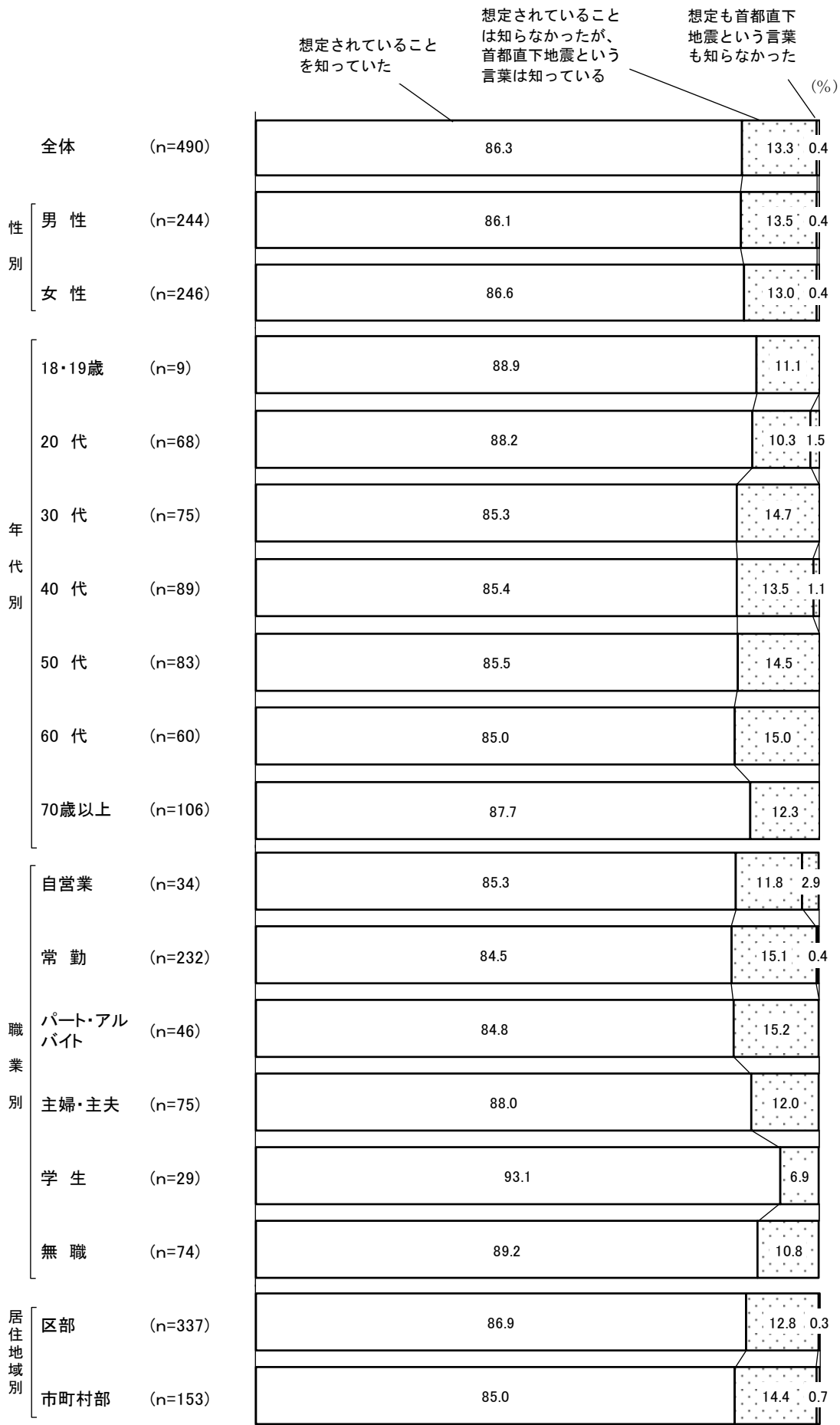


### 【調査結果の概要】

首都直下地震について、知っていたかを聞いたところ、『知っていた（計）』（99.6%）（「想定されていることを知っていた」（86.3%）、「想定されていることは知らなかったが、首都直下地震という言葉は知っている」（13.3%））は、ほぼ全数だった。

「想定も首都直下地震という言葉も知らなかった」（0.4%）は、ほとんどいなかった。

◎大地震に関する認知度（属性別）

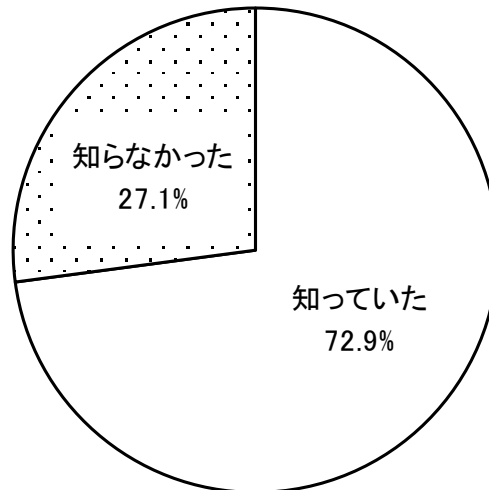


※未回答の選択肢については、0%表示を省略



Q2 荒川や江戸川、多摩川の堤防が決壊した場合には、広域で長期間にわたる浸水が発生します。  
あなたは浸水が発生することについて知っていましたか。

(n=490)

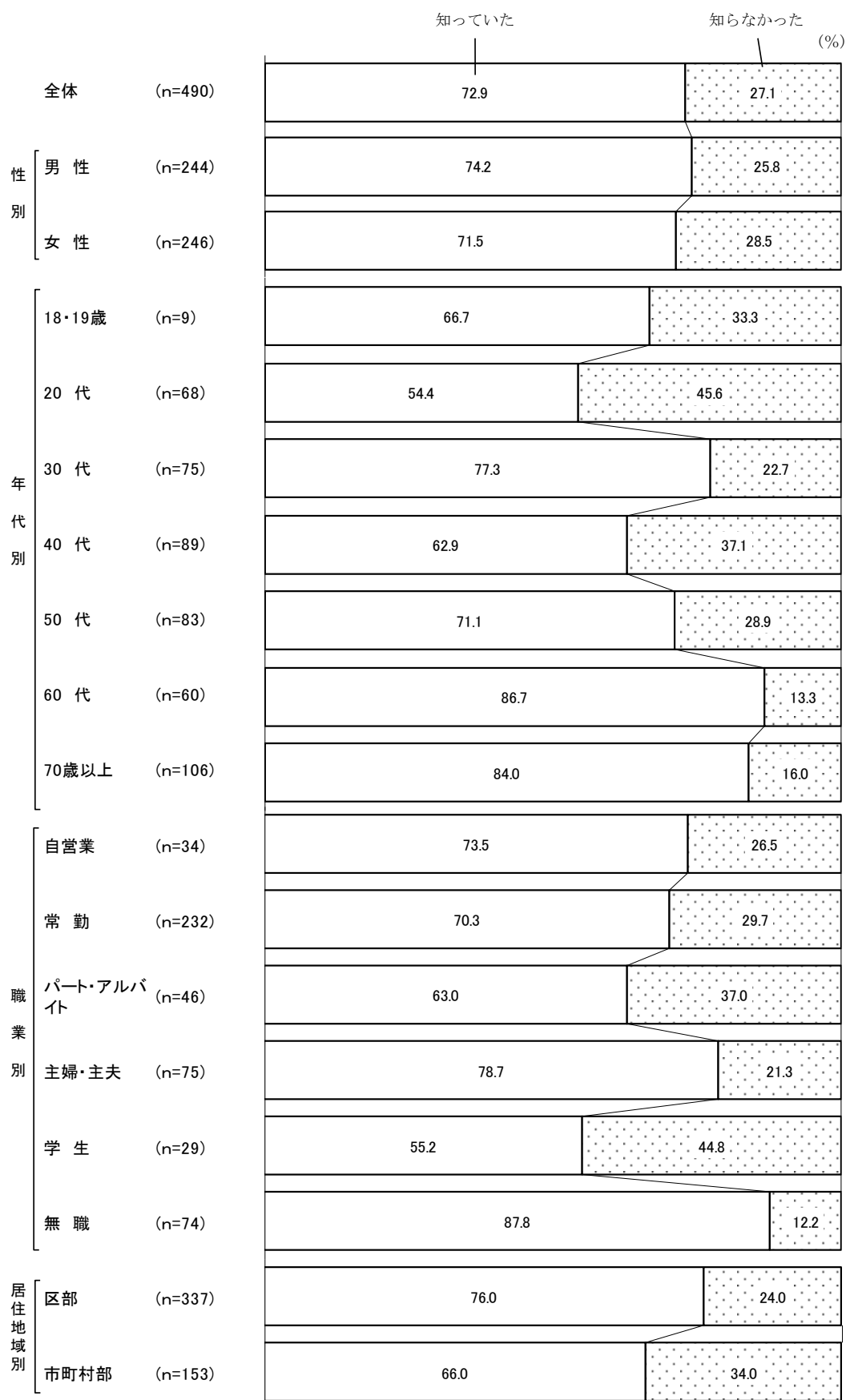


**【調査結果の概要】**

広域で長期間にわたる浸水が発生することを知っていたか聞いたところ、「知っていた」(72.9%) が7割を超えており、「知らなかった」(27.1%) は3割近くだった。



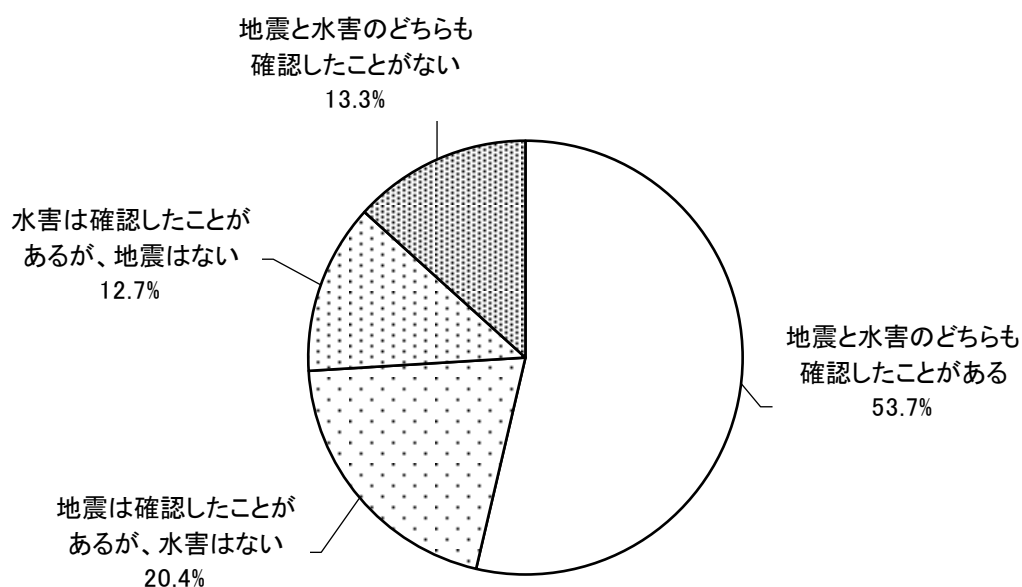
◎大規模水害に関する認知度（属性別）



## 避難場所の認知度

Q3 地震により被災した場合や、台風による大規模水害の可能性が高まっている場合、自宅からどこに避難すべきか、ハザードマップや自治体のホームページ等を見て確認したことはありますか。

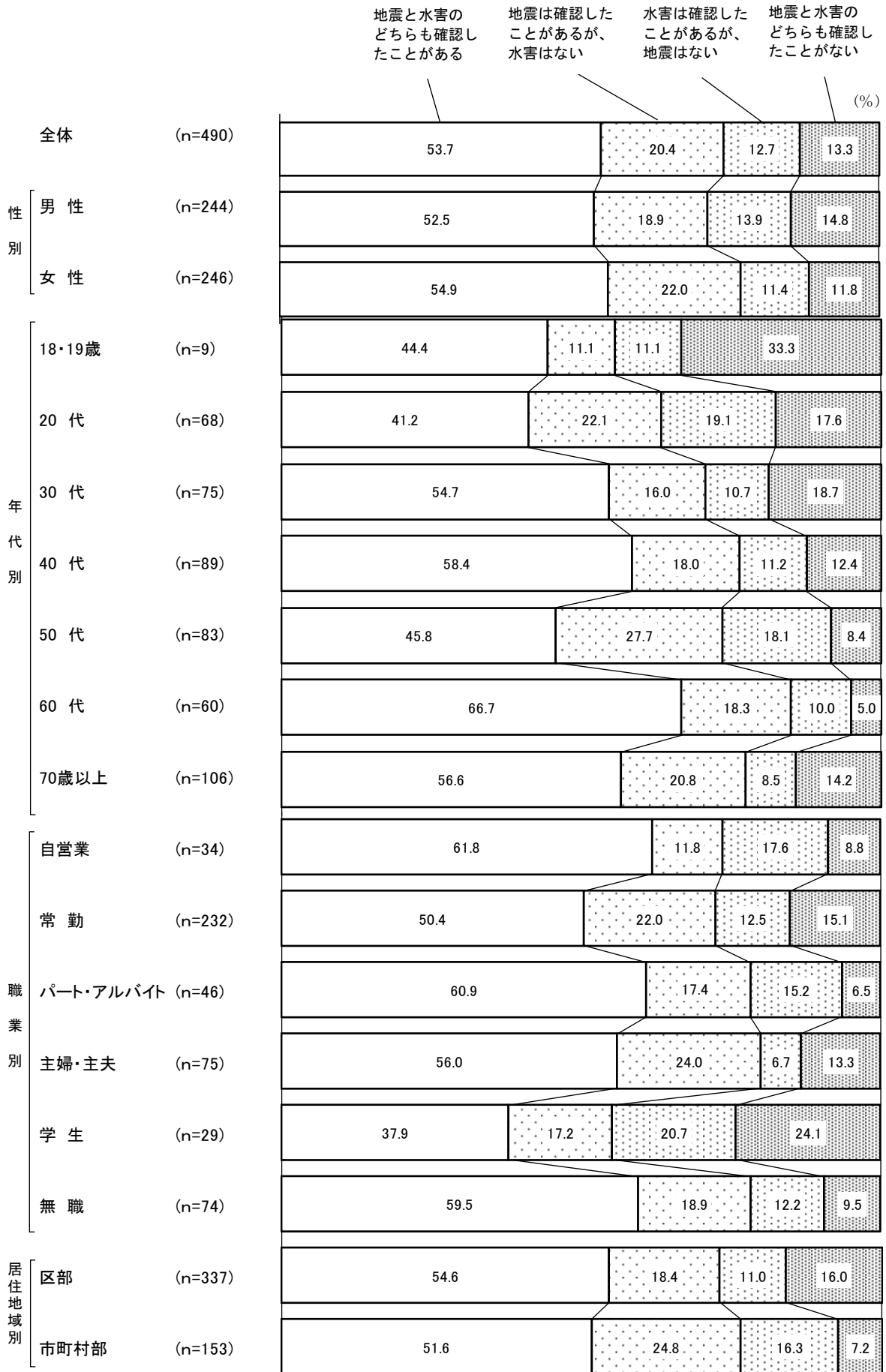
(n=490)



### 【調査結果の概要】

ハザードマップや自治体のホームページで避難場所を確認したことがあるか聞いたところ、「地震と水害のどちらも確認したことがある」(53.7%)が5割を超えて最も高く、以下、「地震は確認したことがあるが、水害はない」(20.4%)、「水害は確認したことがあるが、地震はない」(12.7%)、「地震と水害どちらも確認したことがない」(13.3%)と続いている。

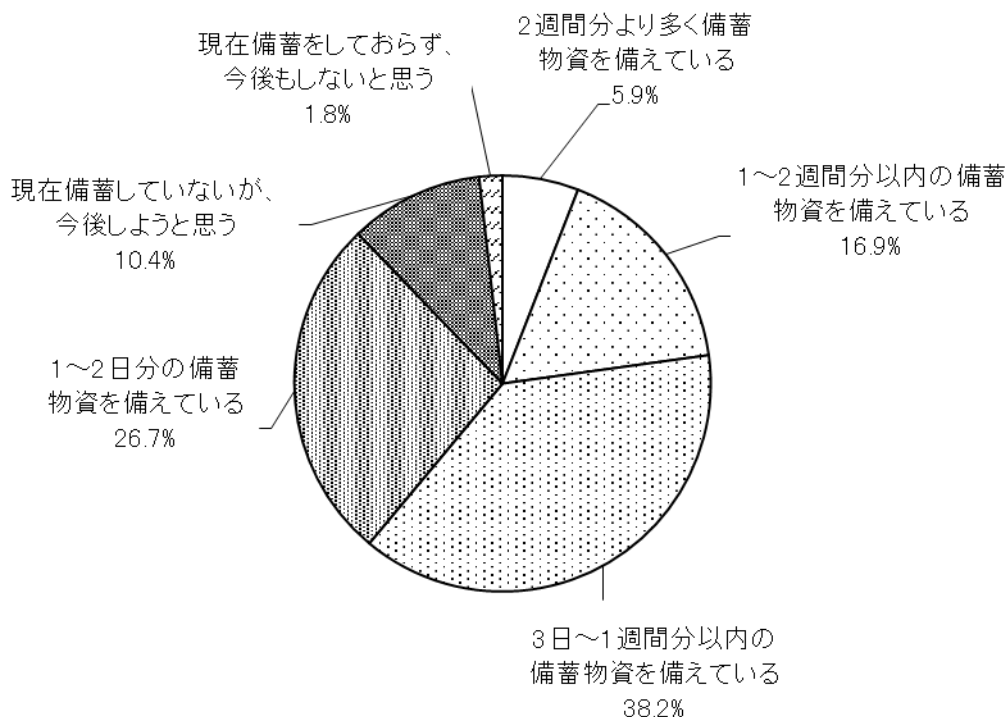
◎避難場所の認知度（属性別）



## 備蓄物資の有無

Q4 地震や水害による大規模災害時、自宅が無事であった場合は、自宅に留まって生活することも想定されます。あなたは日頃から、災害時に必要な食料品や生活必需品等の備蓄物資を備えていますか。

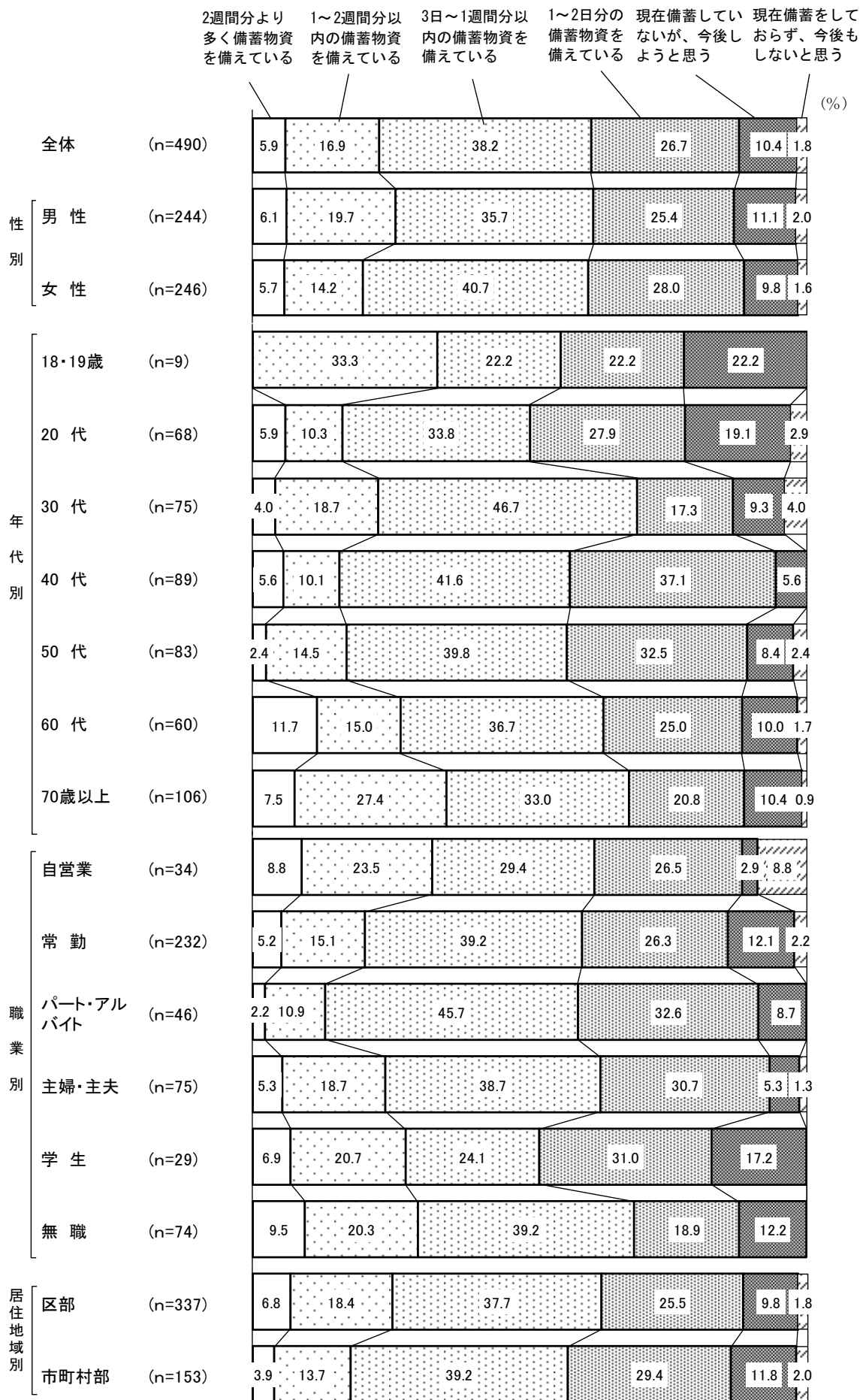
(n=490)



### 【調査結果の概要】

日頃から、災害時に必要な食料品や生活必需品等の備蓄物資を備えているか聞いたところ、「3日～1週間分以内の備蓄物資を備えている」(38.2%)が4割近くで最も高く、以下、「1～2日分の備蓄物資を備えている」(26.7%)、「1～2週間分以内の備蓄物資を備えている」(16.9%)、「現在備蓄していないが、今後しようと思う」(10.4%)などと続いている。

◎備蓄物資の有無（属性別）



※未回答の選択肢については、0%表示を省略

## 都市の事前復興に関する認知度

「都市の事前復興」とは、大規模災害により被災した場合に、迅速かつ計画的な都市復興を実現できるよう、都市復興※のあり方や手順、執行体制をあらかじめ検討し、都民や行政職員等と共有を図る取組をいいます。

都は、都や区市町村職員を対象とした都市復興訓練や、具体的な都市復興の手順等を定めた「東京都震災復興マニュアル」を策定しており、現在改定の検討を進めています。

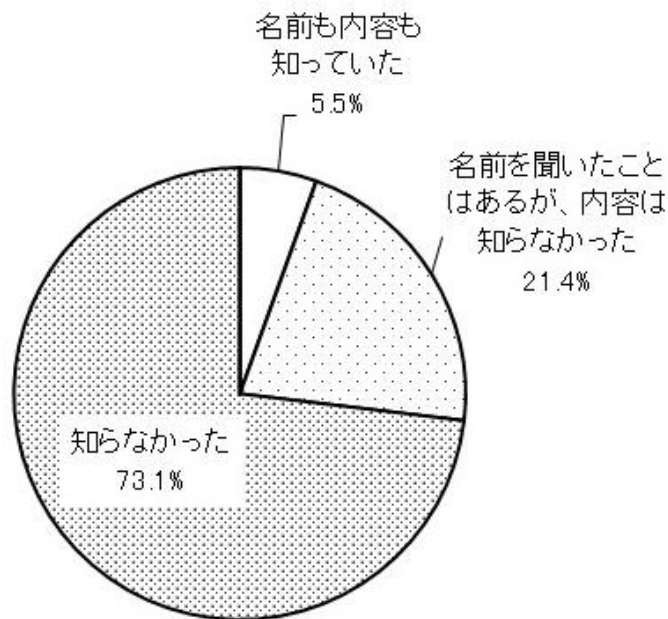
※都市復興：被災を繰り返さないまちづくりのための取組

参考：東京都震災復興マニュアル

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/taisaku/torikumi/1005169/1005172.html>

Q5 あなたは都市の事前復興について知っていましたか。

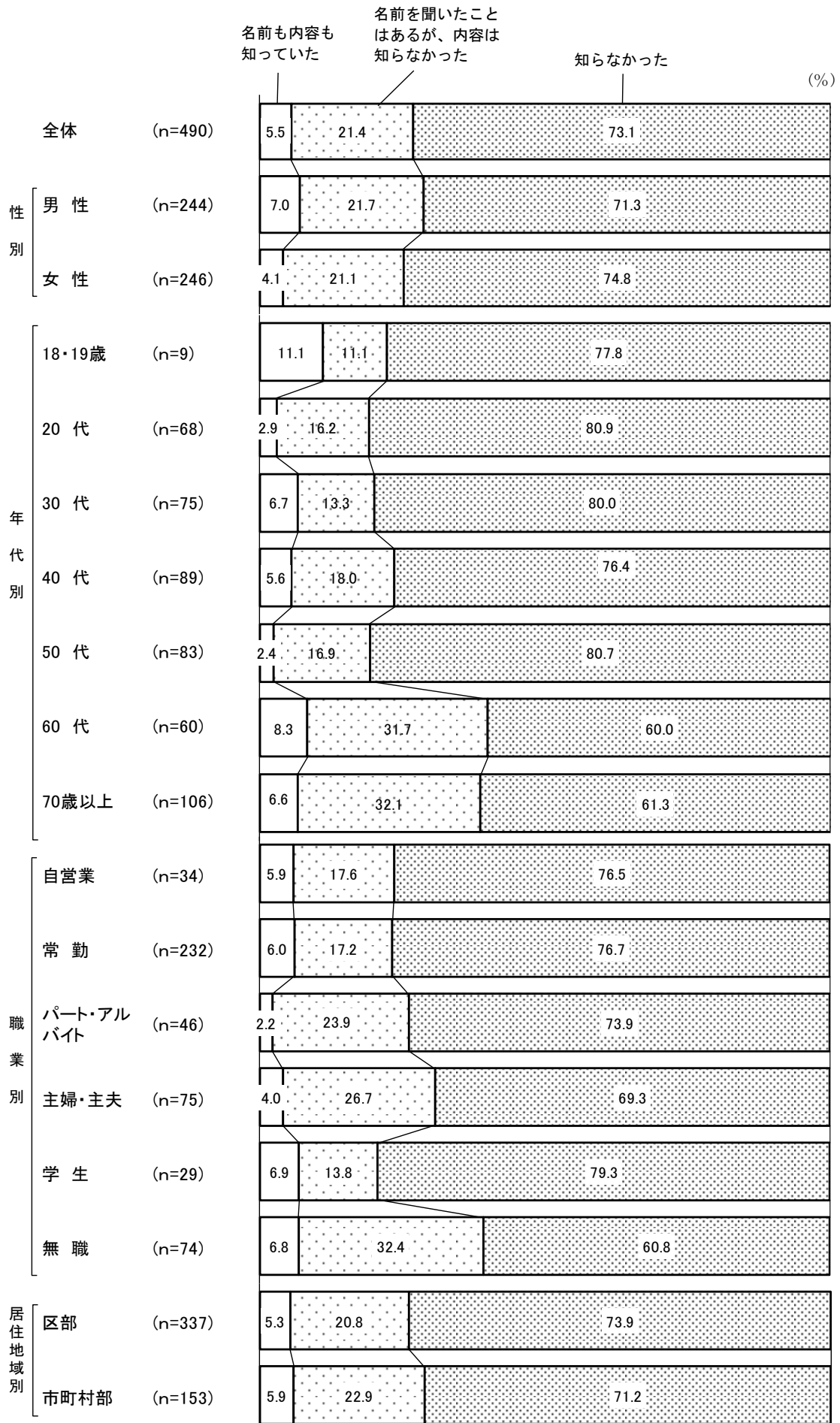
(n=490)



### 【調査結果の概要】

都市の事前復興について、知っていたか聞いたところ、『知っていた（計）』（26.9%）（「名前も内容も知っていた」（5.5%）、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らなかった」（21.4%））は2割半ばだった。「知らなかった」（73.1%）は7割を超えていた。

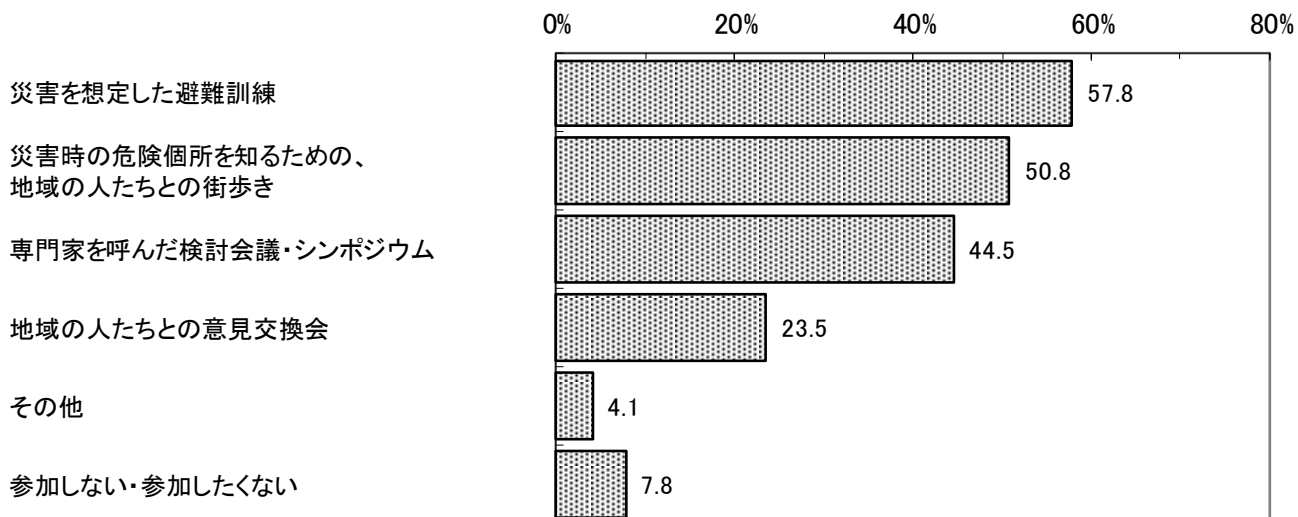
◎都市の事前復興に関する認知度（属性別）



## 都市の事前復興への参加意欲

Q6 あなたがお住まいの地域で、都市の事前復興に関する活動が行われた場合、どのようなものなら参加したいと思いますか。(いくつでも)

MA (n=490)



### 【調査結果の概要】

都市の事前復興に関する活動が行われた場合、どのようなものなら参加したいかを聞いたところ、「災害を想定した避難訓練」(57.8%)が6割近くで最も高く、以下、「災害時の危険個所を知るための地域の人たちとの街歩き」(50.8%)、「専門家を呼んだ検討会議・シンポジウム」(44.5%)、「地域の人たちとの意見交換会」(23.5%)などと続いている。



◎都市の事前復興への参加意欲（年代別）

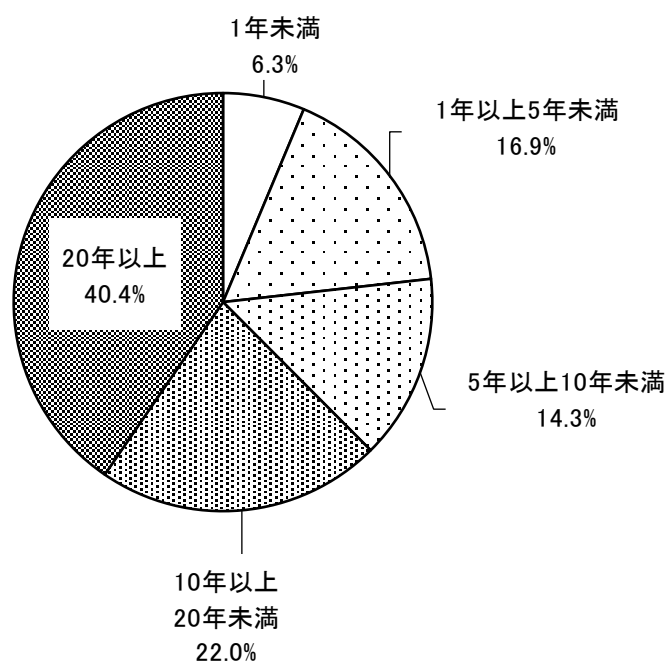
(%)

		n	Q6.あなたがお住まいの地域で、都市の事前復興に関する活動が行われた場合、どのようなものなら参加したいと思いますか。(いくつでも)					参加しない ・参加したくない
			災害を想定した避難訓練	災害時の危険箇所を知るための、地域の人たちとの街歩き	専門家を呼んだ検討会議・シンポジウム	地域の人たちとの意見交換会	その他	
全 体		490	57.8	50.8	44.5	23.5	4.1	7.8
年代	18・19歳	9	66.7	11.1	33.3	22.2	0.0	11.1
	20代	68	54.4	41.2	36.8	17.6	5.9	17.6
	30代	75	61.3	50.7	33.3	20.0	4.0	10.7
	40代	89	62.9	50.6	40.4	15.7	4.5	9.0
	50代	83	53.0	63.9	53.0	30.1	3.6	2.4
	60代	60	51.7	58.3	50.0	26.7	5.0	3.3
	70歳以上	106	59.4	46.2	51.9	29.2	2.8	4.7

## 居住期間

Q7 あなたは、今お住まいの地域に、どれくらいの期間住んでいますか。

(n=490)



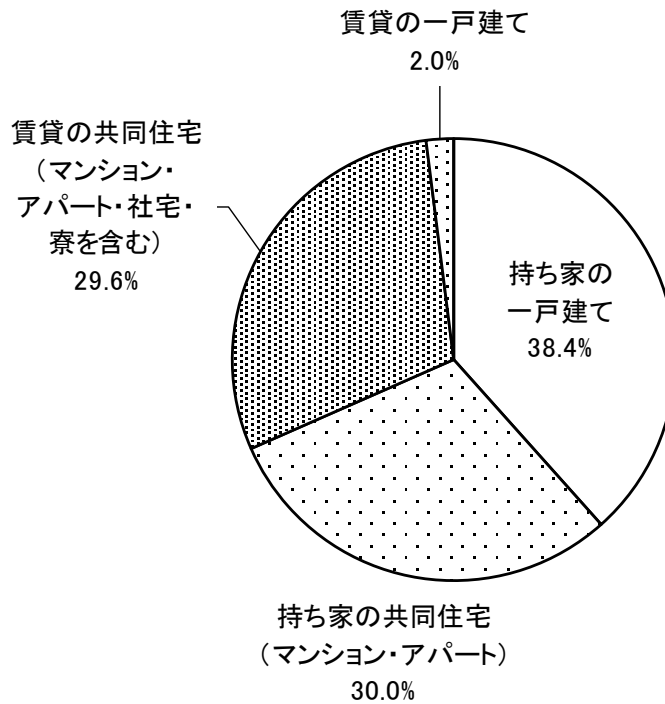
### 【調査結果の概要】

今お住まいの地域にどれくらいの期間住んでいるか聞いたところ、「20年以上」(40.4%)が約4割と最も高く、以下、「10年以上20年未満」(22.0%)、「1年以上5年未満」(16.9%)、「5年以上10年未満」(14.3%)などと続いている。

## 現在の住まい

Q8 あなたの現在のお住まいは次のどれにあたりますか。

(n=490)



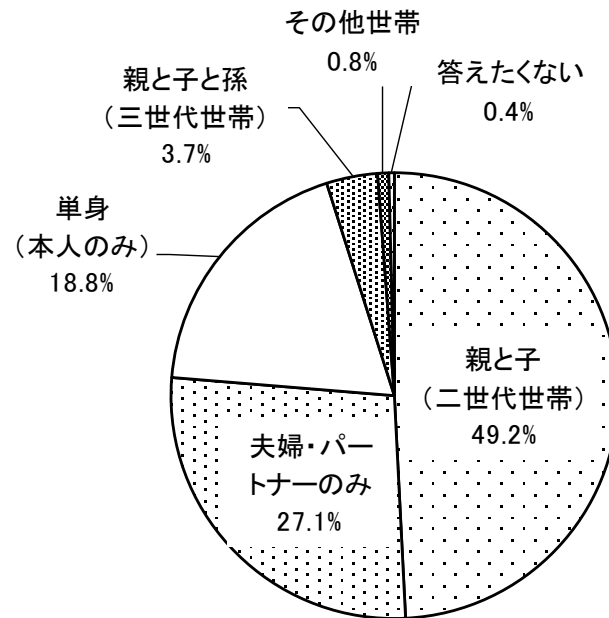
### 【調査結果の概要】

現在のお住まいについて聞いたところ、「持ち家の一戸建て」(38.4%)が4割近くで最も高く、以下、「持ち家の共同住宅 (マンション・アパート)」(30.0%)、「賃貸の共同住宅 (マンション・アパート・社宅・寮を含む)」(29.6%)と続いている。

## 世帯構成

Q9 あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。

(n=490)



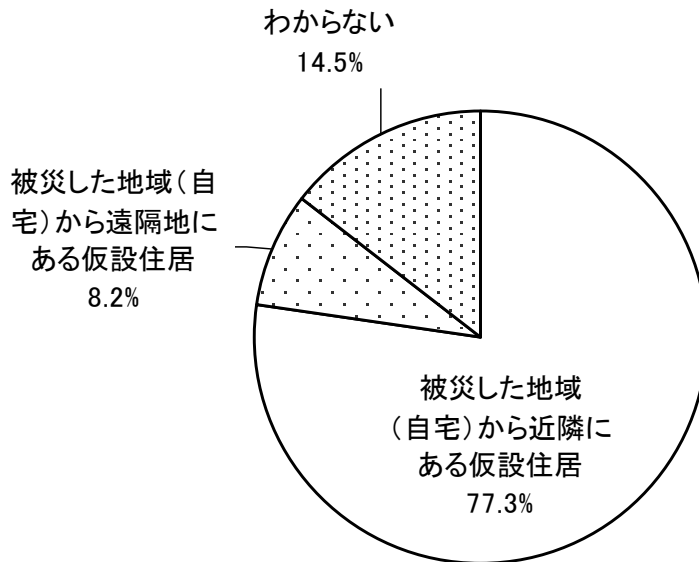
### 【調査結果の概要】

現在の世帯構成について聞いたところ、「親と子 (二世世代世帯)」(49.2%) が5割近くで最も高く、以下、「夫婦・パートナーのみ」(27.1%)、「単身 (本人のみ)」(18.8%) と続いている。

## 被災後の仮移転先

Q10 自宅及び自宅周辺が被災し、一時的に仮設住宅へ移転する場合、あなたはどちらに住みたいですか。

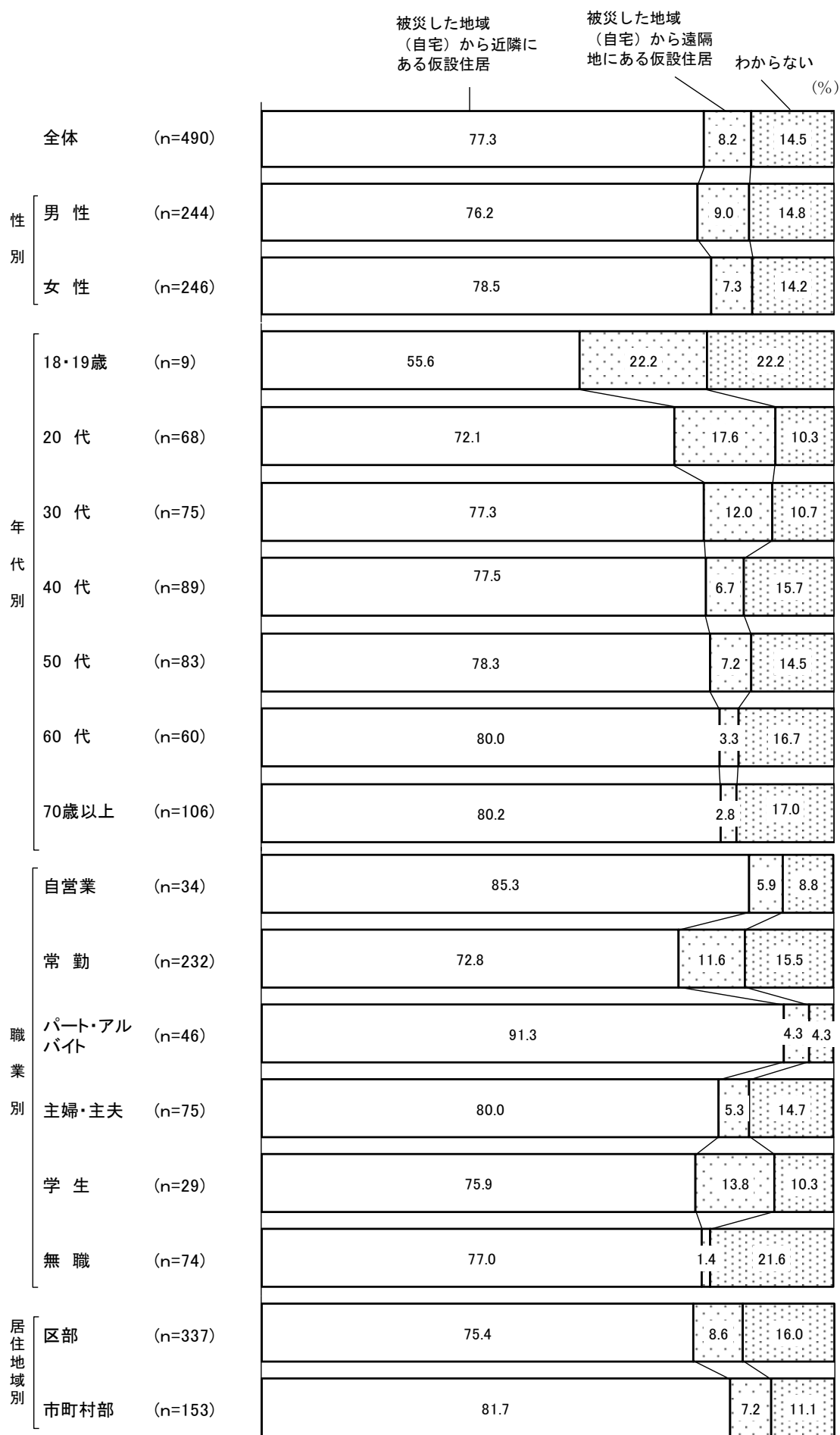
(n=490)



### 【調査結果の概要】

自宅及び自宅周辺が被災し、一時的に仮設住宅へ移転する場合、どちらに住みたいか聞いたところ、「被災した地域（自宅）から近隣にある仮設住宅」（77.3%）が8割近くで最も高く、以下、「被災した地域（自宅）から遠隔地にある仮設住宅」（8.2%）、「わからない」（14.5%）と続いている。

◎被災後の仮移転先（属性別）



◎被災後の仮移転先（現在の住まい別）

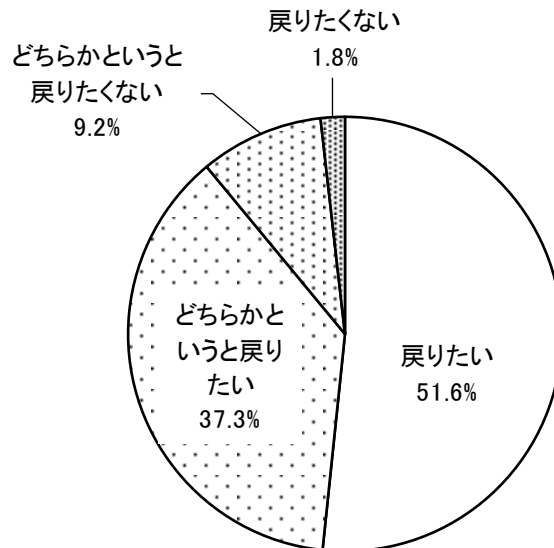
(%)

		n	Q10.自宅及び自宅周辺が被災し、一時的に仮設住宅へ移転する場合、あなたはどちらに住みたいですか。		
			被災した地域(自宅)から近隣にある仮設住居	被災した地域(自宅)から遠隔地にある仮設住居	わからない
全 体		490	77.3	8.2	14.5
Q8.あなたの現在のお住まいは次のどれにあたりますか。	持ち家の一戸建て	188	83.5	4.8	11.7
	持ち家の共同住宅 (マンション・アパート)	147	74.8	5.4	19.7
	賃貸の一戸建て	10	40.0	40.0	20.0
	賃貸の共同住宅 (マンション・アパート・社宅・寮を含む)	145	74.5	13.1	12.4
	その他	0	-	-	-

## 復興後の居住先

Q11 自宅及び自宅周辺が被災し、一時的に仮設住宅へ移転した場合、あなたは復興後の自宅及び自宅周辺の地域に戻りたいですか。

(n=490)



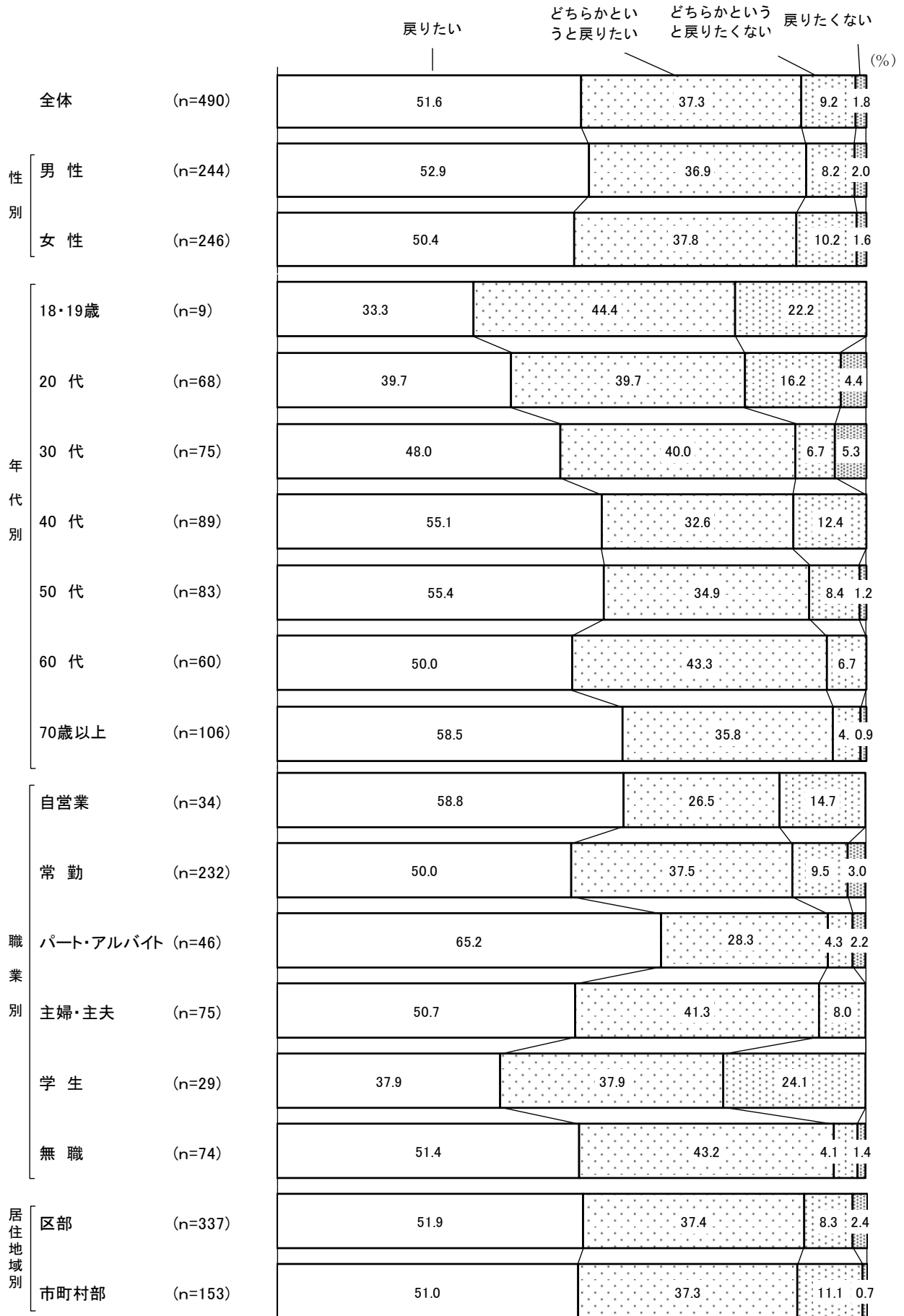
### 【調査結果の概要】

自宅及び自宅周辺が被災し、一時的に仮設住宅へ移転した場合、復興後の自宅及び自宅周辺の地域に戻りたいか聞いたところ、『戻りたい(計)』(88.9%) (「戻りたい」(51.6%)、「どちらかというと戻りたい」(37.3%)) が9割近くだった。

『戻りたくない(計)』(11.0%) (「どちらかというと戻りたくない」(9.2%)、「戻りたくない」(1.8%)) は1割だった。



◎復興後の居住先（属性別）



※未回答の選択肢については、0%表示を省略

◎復興後の居住先（現在の住まい別）

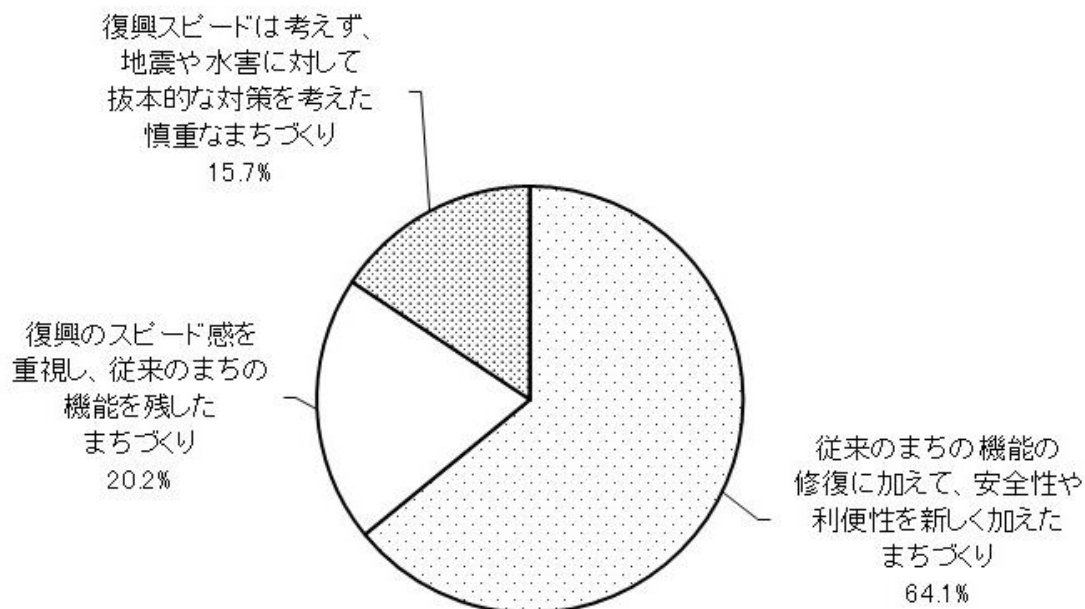
(%)

		n	Q11.自宅及び自宅周辺が被災し、一時的に仮設住宅へ移転した場合、あなたは復興後の自宅及び自宅周辺の地域に戻りたいですか。			
			戻りたい	どちらかという と戻りたい	どちらかという と戻りたくない	戻りたくない
全 体		490	51.6	37.3	9.2	1.8
Q8.あなたの現在のお住まいは次のどれにあたりますか。	持ち家の一戸建て	188	60.1	33.0	6.4	0.5
	持ち家の共同住宅 (マンション・アパート)	147	49.0	42.9	7.5	0.7
	賃貸の一戸建て	10	30.0	40.0	20.0	10.0
	賃貸の共同住宅 (マンション・アパート・ 社宅・寮を含む)	145	44.8	37.2	13.8	4.1
	その他	0	-	-	-	-

## 都市復興に求める要素

Q12 首都直下地震等の被災時における計画的な都市復興に向け、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

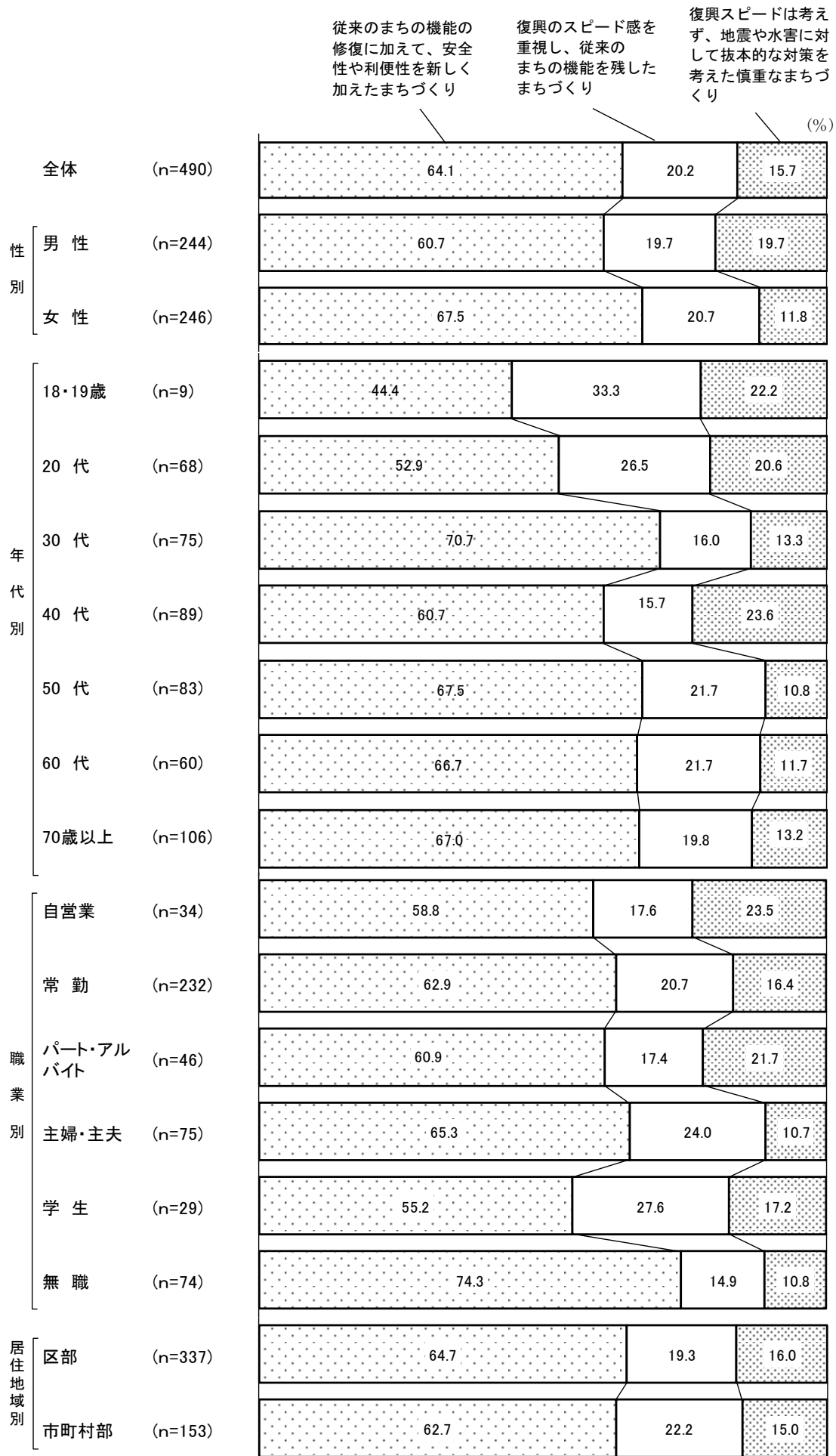
(n=490)



### 【調査結果の概要】

首都直下地震等の被災時における計画的な都市復興に向けて聞いたところ、「従来のまちの機能の修復に加えて、安全性や利便性を新しく加えたまちづくり」(64.1%)が6割半ばと最も高く、以下、「復興のスピード感を重視し、従来のまちの機能を残したまちづくり」(20.2%)、「復興のスピードは考えず、地震や水害に対して抜本的な対策を考えた慎重なまちづくり」(15.7%)だった。

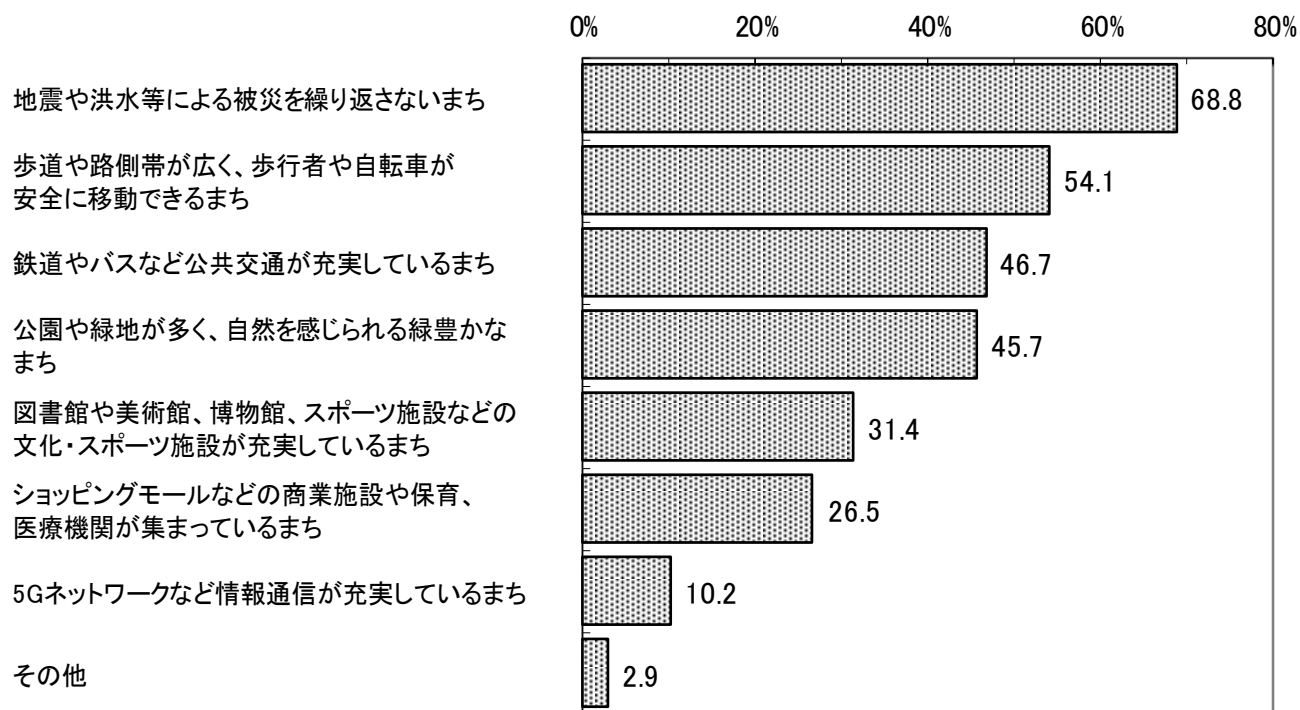
◎都市復興に求める要素（属性別）



## 都市復興で求めるまちの具体像

Q13 あなたは、具体的にどのようなまちを東京の都市復興に求めますか。当てはまるものを3つまで選んでください。

3MA (n=490)



### 【調査結果の概要】

どのようなまちを東京の都市復興に求めるか聞いたところ、「地震や洪水等による被災を繰り返さないまち」(68.8%)が7割近くと最も高く、以下、「歩道や路側帯が広く、歩行者や自転車が安全に移動できるまち」(54.1%)、「鉄道やバスなど公共交通が充実しているまち」(46.7%)、「公園や緑地が多く、自然を感じられる緑豊かなまち」(45.7%)、「図書館や美術館、博物館、スポーツ施設などの文化・スポーツ施設が充実しているまち」(31.4%)などと続いている。

## 高台まちづくりの認知度

高台まちづくりは、建築物の上層階での避難スペースの確保、公園の高台化、高規格堤防の整備等により高台の拠点を確保するなど、激甚化する風水害から都民を守る取組みです。

都は、現在、国や関係区も含めたワーキンググループを設置し、モデル地区等において、高台まちづくりの具体化や推進方策の検討を進めています。



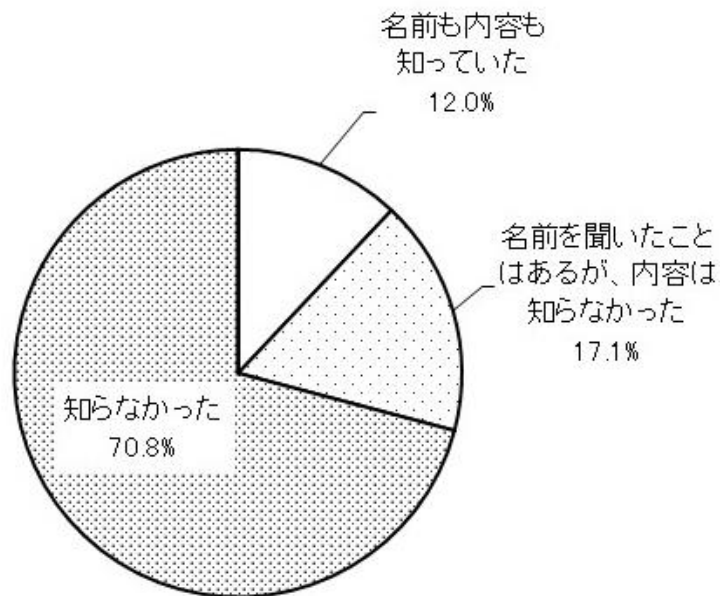
建築物等（建物群）による  
高台まちづくり



高規格堤防の上面を活用した  
高台まちづくり

Q14 あなたは「高台まちづくり」を知っていましたか。

(n=490)

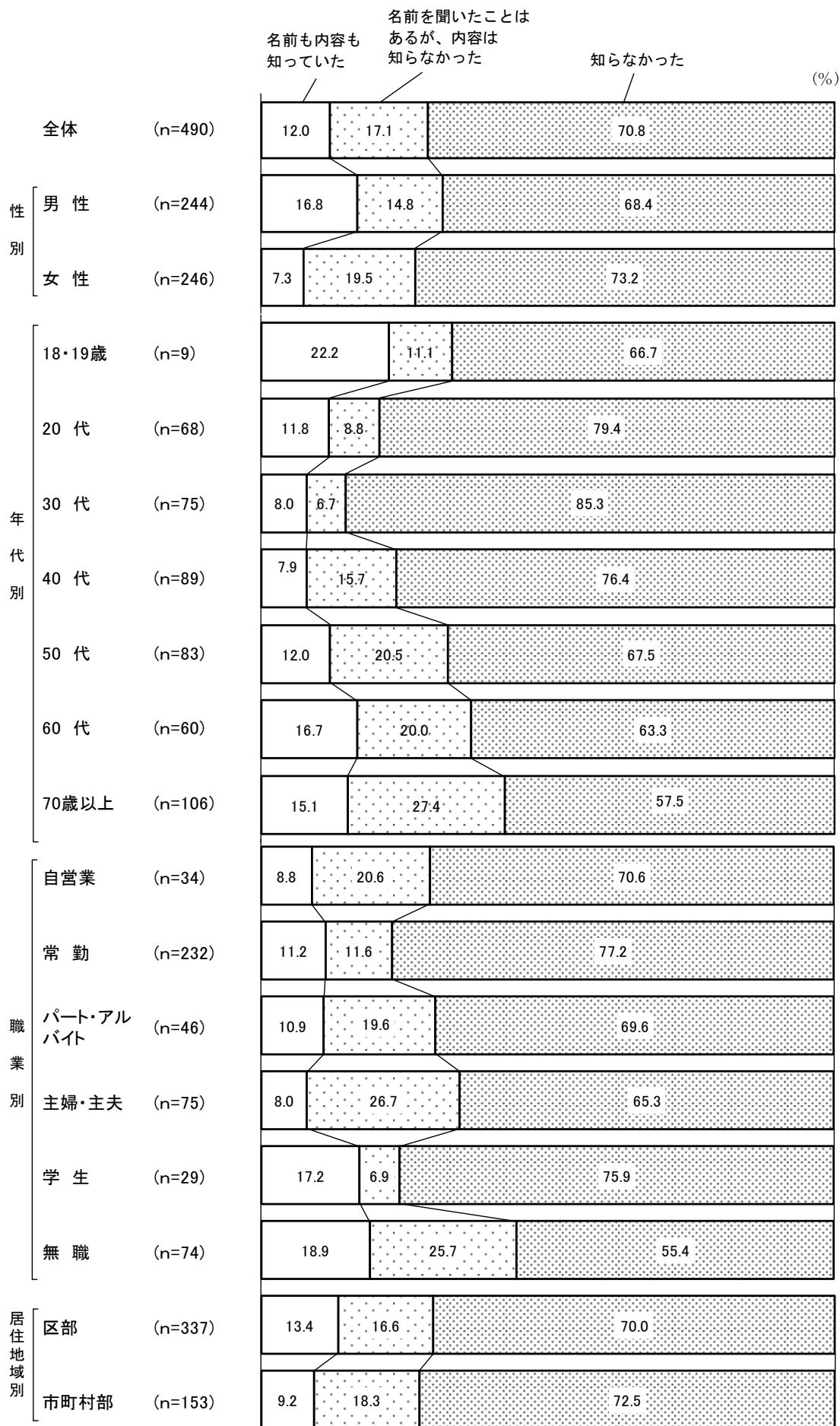


**【調査結果の概要】**

高台まちづくりを知っているか聞いたところ、『知っていた（計）』（29.1%）（「名前も内容も知っていた」（12.0%）、「名前をきいたことはあるが、内容は知らなかった」（17.1%））が3割近くだった。

「知らなかった」（70.8%）は7割だった。

◎高台まちづくりの認知度（属性別）



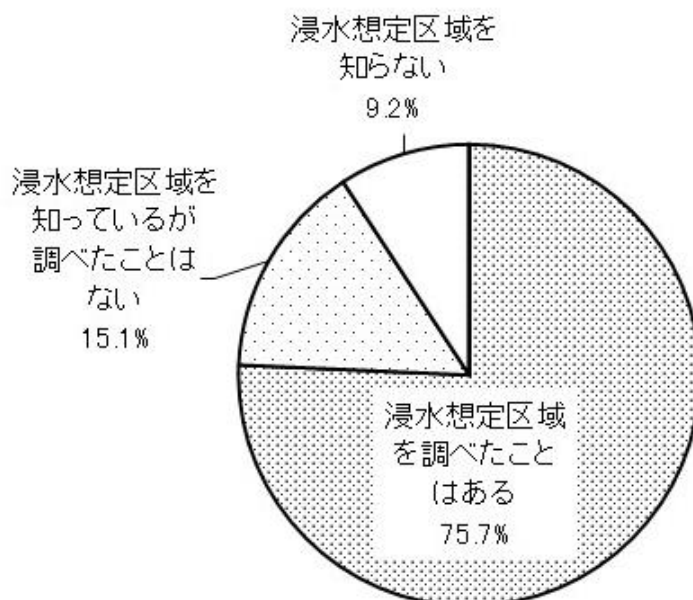


## 自宅の浸水想定

Q15 あなたは自宅が浸水想定区域 ※ にあたるか、調べたことがありますか。

※ 浸水想定区域：河川等が氾濫した場合に浸水が想定される区域

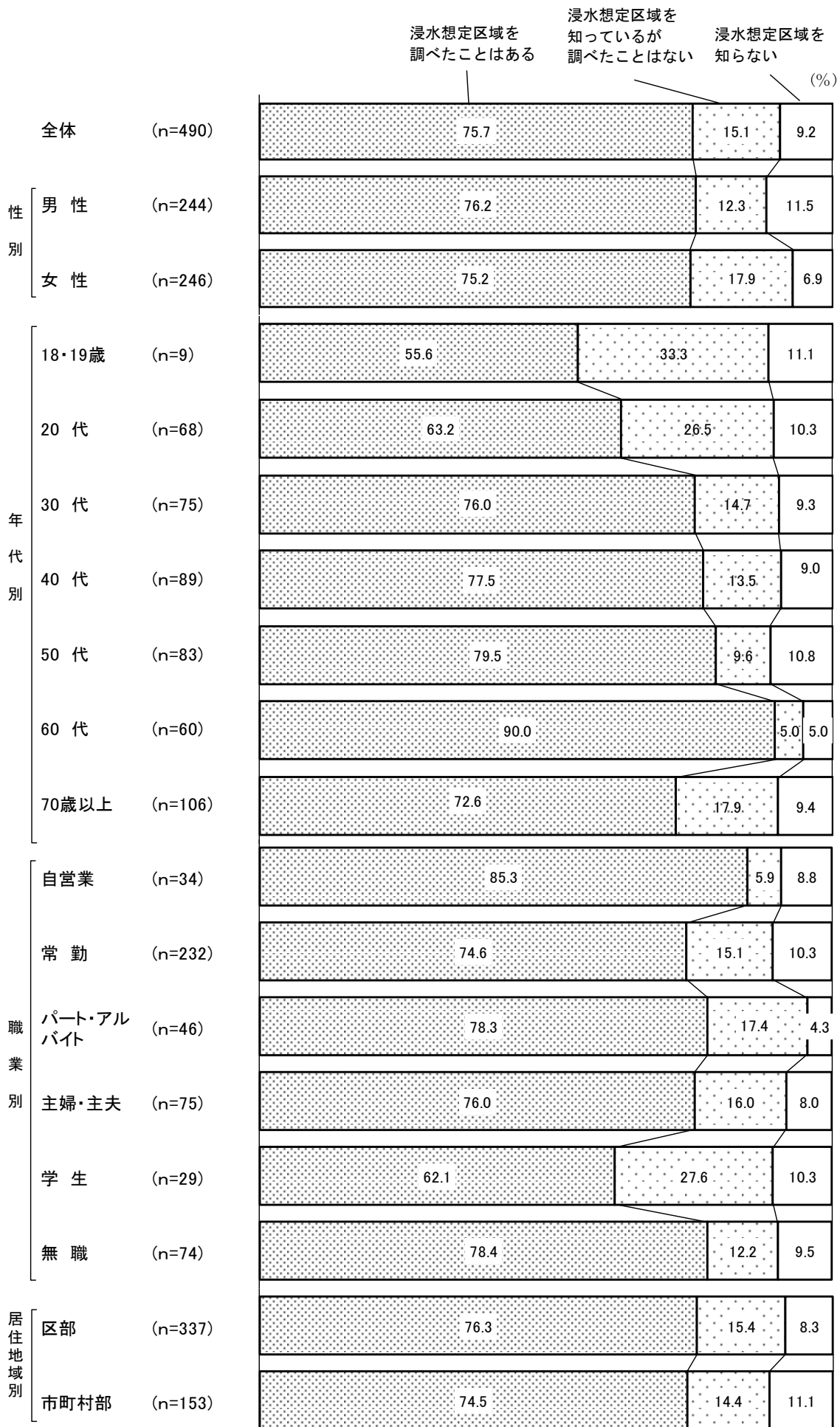
(n=490)



### 【調査結果の概要】

自宅が浸水想定区域にあたるか調べたことがあるか聞いたところ、「浸水想定区域を調べたことはある」(75.7%)が7割半ばで最も高く、以下、「浸水想定区域を知っているが調べたことはない」(15.1%)、「浸水想定区域を知らない」(9.2%)だった。

◎自宅の浸水想定（属性別）

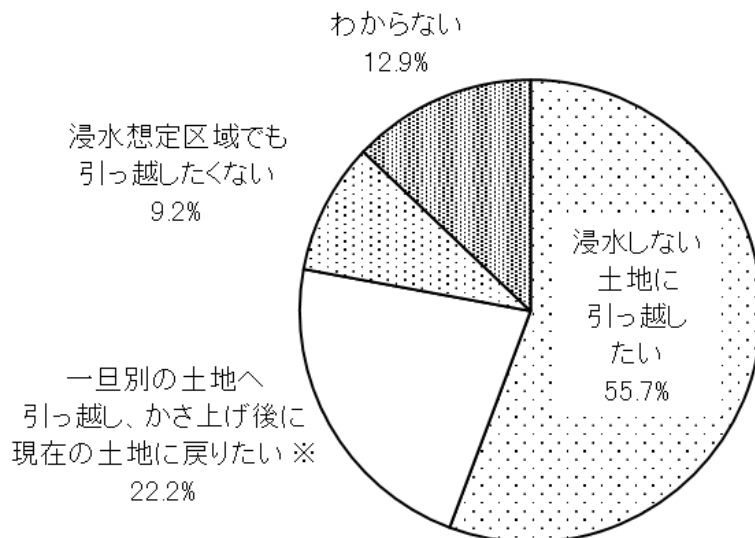


## 高台への移転に関する意識

Q16 荒川や江戸川、多摩川での洪水等によりひとたび堤防が決壊すると、広範囲で浸水被害が発生し、水が引かない期間が2週間以上となることが想定されている地域もあります。

自宅が浸水想定区域にある場合、下記のうち、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

(n=490)



※地盤のかさ上げのため、一旦別の土地へ引っ越しを行い、盛土整備後、現在の土地へ戻ってくる方法があります。かさ上げの工事期間中は、仮住まいで生活するなどの負担が発生します。

### ①かさ上げのため仮移転



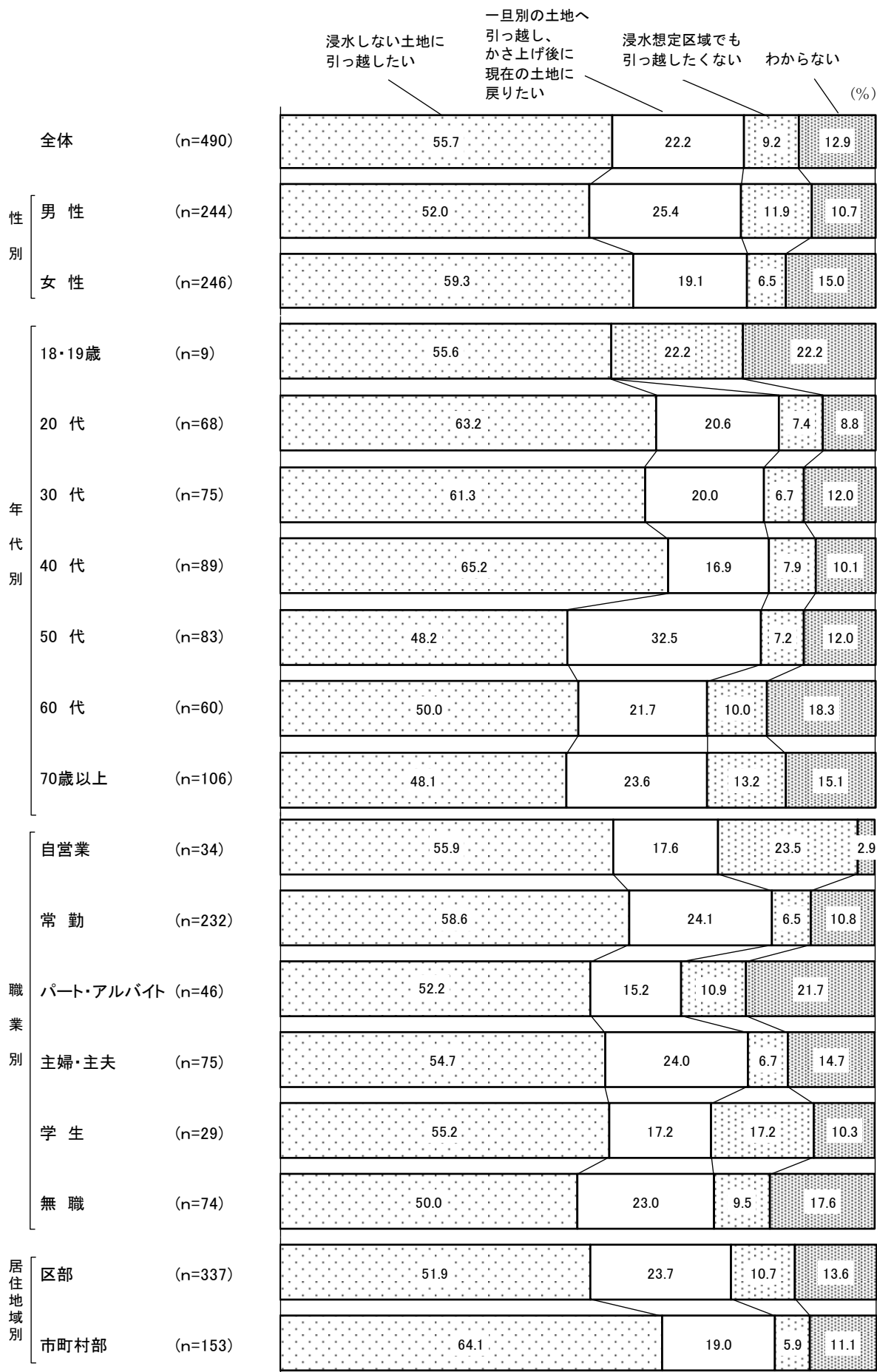
### ②本移転（二度目の移転）



### 【調査結果の概要】

自宅が浸水想定区域にある場合について聞いたところ、「浸水しない土地に引っ越したい」(55.7%) が5割半ばと最も高く、以下、「一旦別の土地へ引っ越し、かさ上げ後に現在の土地に戻りたい」(22.2%)、「浸水想定区域でも引っ越したくない」(9.2%) だった。

◎高台への移転に関する意識 (属性別)



◎高台への移転に関する意識（世帯構成別）

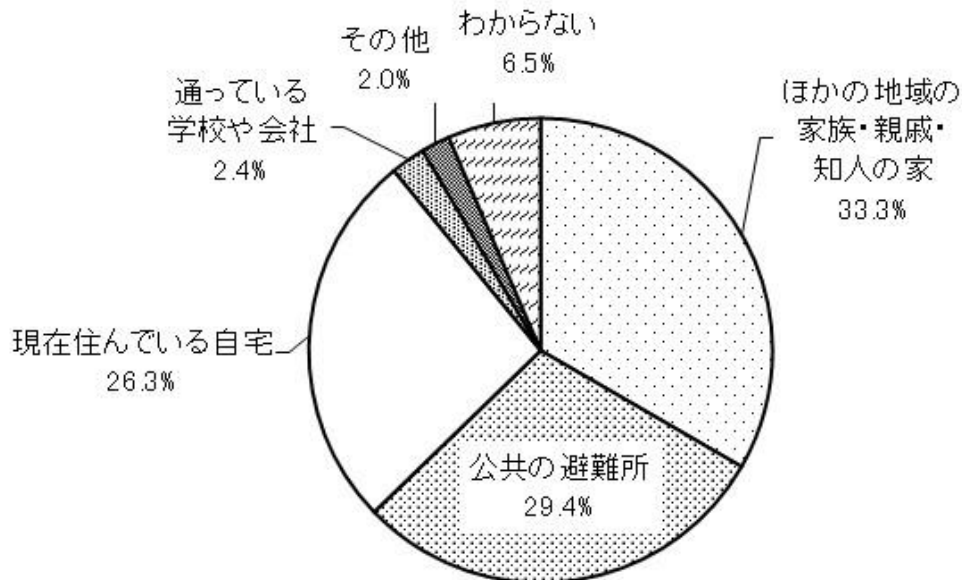
(%)

		n	Q16.自宅が浸水想定区域にある場合、下記のうち、あなたの考えに最も近いものはどれですか。			
			浸水しない土地に引っ越したい	一旦別の土地へ引っ越し、かさ上げ後に現在の土地に戻りたい	浸水想定区域でも引っ越したくない	わからない
全 体		490	55.7	22.2	9.2	12.9
Q9.あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。	単身(本人のみ)	92	62.0	18.5	5.4	14.1
	夫婦・パートナーのみ	133	56.4	22.6	9.8	11.3
	親と子(二世帯世帯)	241	53.1	23.7	10.4	12.9
	親と子と孫(三世帯世帯)	18	50.0	27.8	11.1	11.1
	その他世帯	4	75.0	-	-	25.0
	答えたくない	2	50.0	-	-	50.0

## 水害発生時の自宅避難の意識

Q17 あなたのお住まいの地域で水害が発生し、ライフライン（電気、ガス、水道など）が断絶された場合、どこで過ごしますか。

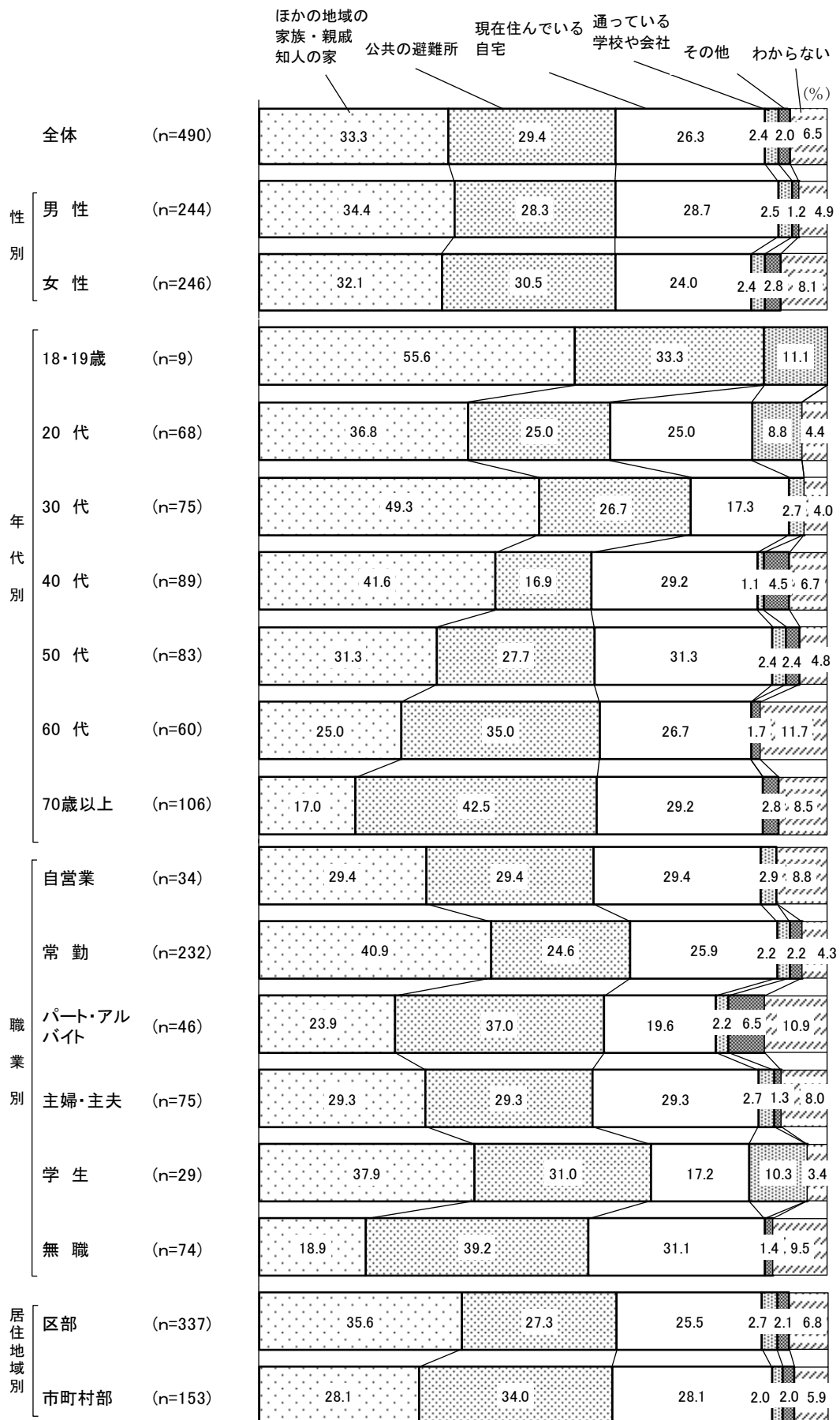
(n=490)



### 【調査結果の概要】

お住まいの地域で水害が発生し、ライフライン（電気、ガス、水道など）が断絶された場合、どこで過ごすか聞いたところ、「ほかの地域の家族・親戚・知人の家」（33.3%）が約3割と最も高く、以下、「公共の避難所」（29.4%）、「現在住んでいる自宅」（26.3%）、「通っている学校や会社」（2.4%）などと続いている。

◎水害発生時の自宅避難の意識（属性別）



※未回答の選択肢については、0%表示を省略

◎水害発生時の自宅避難の意識（居住期間別）

(%)

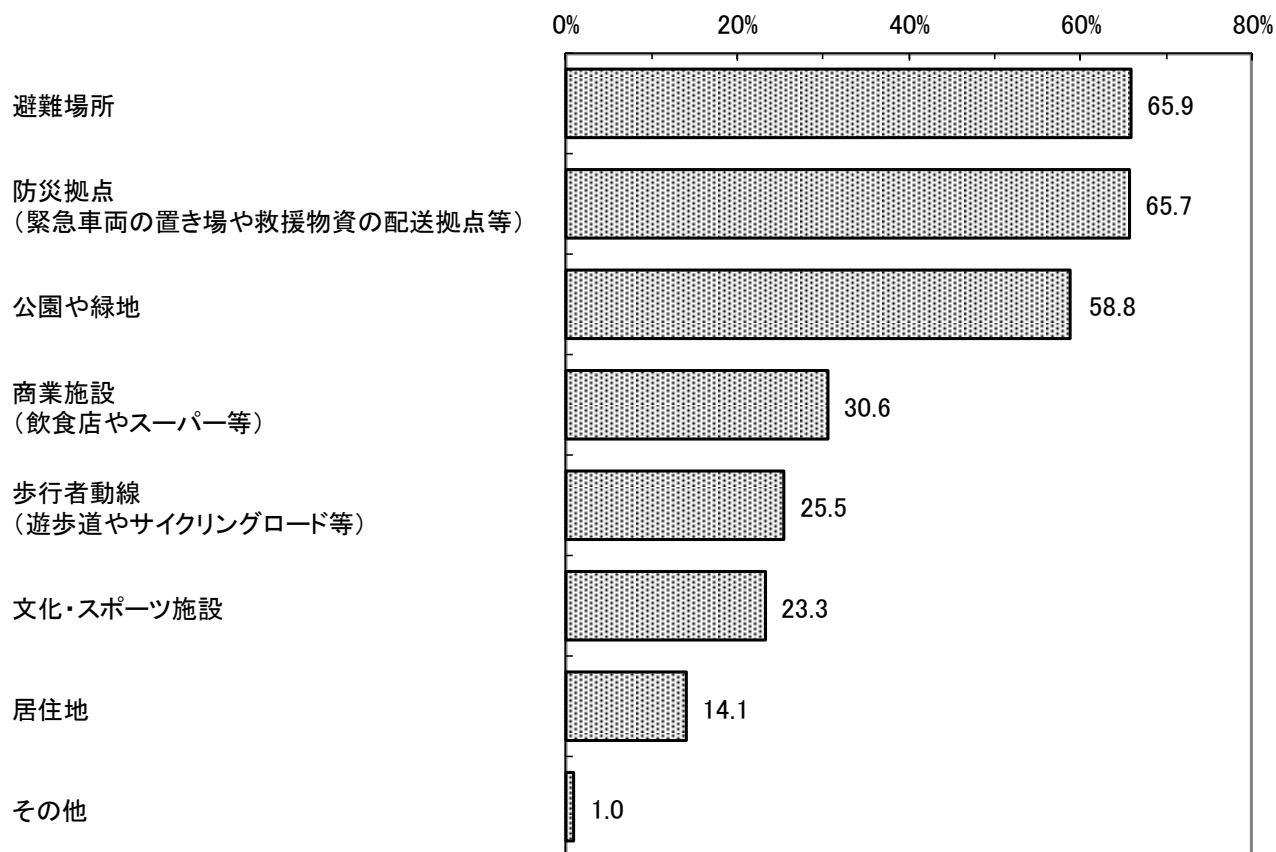
		n	Q17.あなたのお住まいの地域で水害が発生し、ライフライン(電気、ガス、水道など)が断絶された場合、どこで過ごしますか。					
			ほかの地域の家族・親戚・知人の家	公共の避難所	現在住んでいる自宅	通っている学校や会社	その他	
全体		490	33.3	29.4	26.3	2.4	2.0	6.5
Q7.あなたは、今 お住まいの地域 に、どれくらいの 期間住んでいますか。	1年未満	31	51.6	19.4	19.4	6.5	0.0	3.2
	1年以上5年未満	83	44.6	32.5	15.7	2.4	1.2	3.6
	5年以上10年未満	70	48.6	25.7	17.1	2.9	1.4	4.3
	10年以上20年未満	108	30.6	24.1	31.5	2.8	3.7	7.4
	20年以上	198	21.7	33.8	32.3	1.5	2.0	8.6



## 高台上面の活用方策

Q18 高台は防災の役割とともに、賑わいや憩いの場を創出する役割もあります。高台上面の活用方策として希望するものを3つまで選んでください。

3MA (n=490)



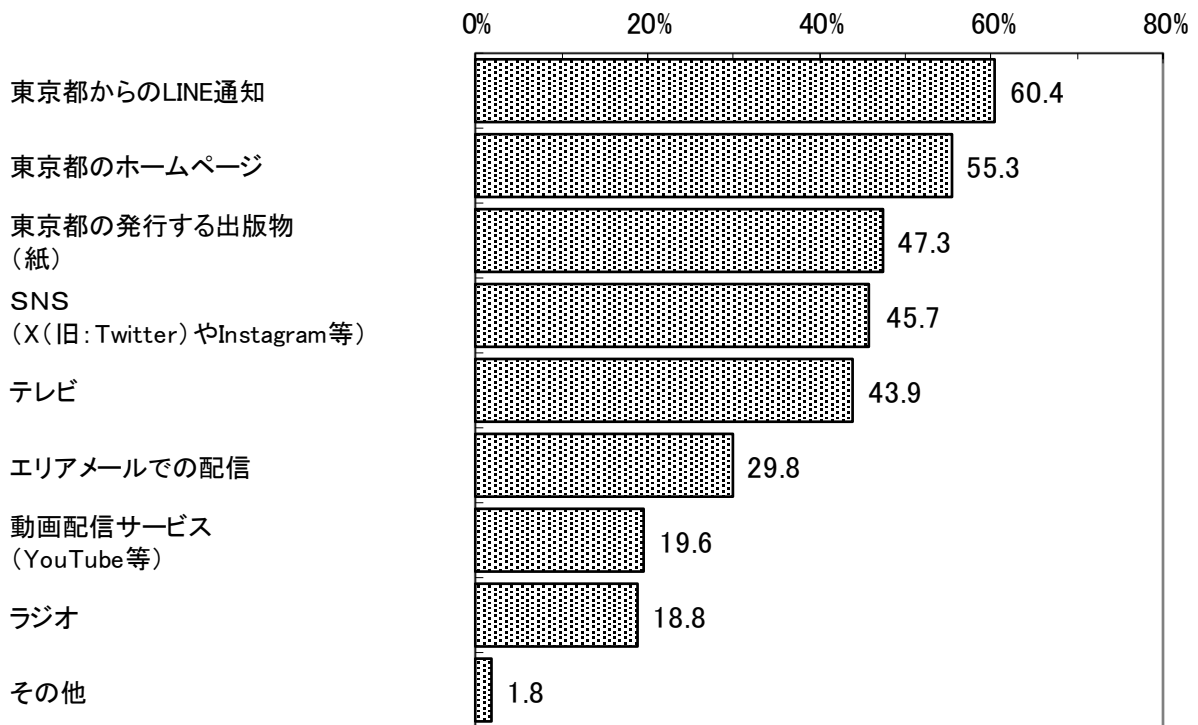
### 【調査結果の概要】

高台の活用方策として希望するものを聞いたところ、「避難場所」(65.9%)が6割半ばで最も高く、以下、「防災拠点(緊急車両の置き場や救援物資の配送拠点等)」(65.7%)、「公園や緑地」(58.8%)、「商業施設(飲食店やスーパー等)」(30.6%)などと続いている。

## 効果的な普及啓発の方法

Q19 日頃、「東京都」から災害時に役立つ情報を受け取るとしたら、あなたはどのような媒体が受取りやすいと思いますか。(いくつでも)

MA (n=490)



### 【調査結果の概要】

災害時に役立つ情報を受け取るとしたらどのような媒体がよいか聞いたところ、「東京都からのLINE通知」(60.4%)が6割を超えて最も高く、以下、「東京都のホームページ」(55.3%)、「東京都の発行する出版物(紙)」(47.3%)、「SNS(X(旧Twitter)やInstagram等)」(45.7%)などと続いている。

## 事前復興や高台まちづくりについて（自由意見）

Q20 都市の事前復興や高台まちづくりなどについて、あなたのご意見を自由にお書きください。

(n=468)

- |                    |      |
|--------------------|------|
| (1) 大規模災害への意識と取組全般 | 278件 |
| (2) 広報・啓発に関すること    | 88件  |
| (3) 高台まちづくりに関すること  | 80件  |
| (4) 事前復興に関すること     | 22件  |

### （主なご意見）

#### (1) 大規模災害への意識と取組全般 278件

- どこか他人事のように思っているけれど、いつか来るということを再度念頭に置いて生活していきたい。  
(女性 20代 新宿区)
- 地震や洪水はいつ起こるかわからないので自分で避難場所等を確認しておかないとと改めて思った。高台まちづくりのシンボルがショッピングモールなどの行きなれた施設が備わっていれば、災害時も物資があったり、避難の目印になりいいなと思った。  
(女性 20代 大田区)
- 高台まちづくりについては初めて知る情報でした。自分の住む地域がまずは危険区域なのか調べることから始め、起こった時の行動を想定していきたいと感じました。また事前復興や高台まちづくりのために有意義な税金の使われ方がされるといいなと思います。  
(女性 30代 世田谷区)
- 激甚化する災害に対し防災機能の強靱化は急務である。環境に配慮しつつ災害に強い都市の整備をお願いしたい。  
(男性 40代 小金井市)
- 都市事前復興と高台まちづくりを組み合わせることで、災害リスクを軽減し、持続可能な都市を実現するためには、高台に防災拠点や防災公園を整備するだけでなく、周辺地域との連携を強化し、災害時の相互支援体制を構築することも重要と考えます。  
(男性 50代 港区)
- 知らないことが多いですが、これから関心を高めていきたいと思います。関心を持つきっかけを、どう作るかを地域で話し合ってみたいです。  
(男性 60代 新宿区)

○ 毎年、自然災害が多くなっているような思いがします。人命優先で時間的に猶予があると思いません。専門家、学識経験者等の意見報告会などの貴重なご意見を是非に、活用して少しでも安心出来る対策をつくっていただきたいし、災害に強い都市にして欲しいです。

(女性 70歳以上 青梅市)

○ 現在の街並みを変えてあたらしい街をつくるのでその地域のひとの意見をよく聞き、また利点を丁寧に説明してほしい。

(男性 40代 日野市)

## (2) 広報・啓発に関すること 88件

○ 東京は若い世代の割合も多く、大きな災害を経験、見たことのない人がほとんどだと思うので住民の意識を高めることも大切だと思う。事前復興や高台まちづくりは、周知されていないと、実際に災害が発生したときにうまく機能しない可能性があると思う。たくさんの人に知ってもらう取り組みが大切だと思う。地域で防災訓練をしても参加しない人が多いと思うので、参加特典をつけたり、YouTubeやテレビなどを使って情報提供したらいいと思う。

(女性 10代 国立市)

○ 色々な取り組みがあるのにも関わらず、知らないことが多かった。地域のイベントは参加しにくいので、SNSなどより幅広く広げられるツールの活用をしていただきたいと思う。すべてを公共に任せるのではなく、個人でも対策が必要だと思った。

(女性 20代 渋谷区)

○ 事前準備をしていることは知っていますが、具体的に何がどう活用できるのかは知りません。自身で調べれば良いのですが、情報の発信も重視していただきたいです。

(男性 40代 板橋区)

○ 都市の事前復興や高台まちづくりについて、今回のアンケートで初めて知った。都LINE等を通じての周知も考えても良いのではないかな。

(女性 40代 渋谷区)

○ 居住地域の災害リスクを繰り返し分かり易く伝えないと事前復興や高台まちづくりへの参画意識が醸成されないと考えます。浸水の可能性のある地域などは道路などに標識を設置するなどして日常的に意識する必要があると思います。

(男性 40代 中央区)

○ 事前復興や高台まちづくりという事業を知らなかったもので、もっとアピールしてもらいたいです。毎日、目にするテレビやSNSで流して欲しいです。

(女性 50代 立川市)

### (3) 高台まちづくりに関すること 80件

- 正直このアンケートを答えるまで都市の事前復興や高台まちづくりについてあまり聞いたことがなく知識がなかった。ハザードマップもきちんと見たことがなかったので今回のアンケートが防災に対する意識を持つという点で良いきっかけになった。高台まちづくりは防災の面だけでなく、公園や緑地としての活躍ができること、それに伴う人の流れや交流が増えることなど様々な利点があるように思う。実際に実現している街を見てみたいと思った。  
(女性 20代 世田谷区)
- 高台まちづくりという取り組みを初めて聞き、興味深いと思いました。ただ、人間は自然の前にはあまりに無力です。完全に安全という場所はないのだという意識もまた、私たちひとりひとりに必要なことかもしれません。  
(女性 30代 町田市)
- 高台まちづくりについては、避難機能だけでなく商業、宅地などの有効活用も合わせて行ってほしい。  
(男性 40代 足立区)
- 高台まちづくりは積極的にバリアフリーを取り入れて、高齢者や車椅子を利用している方にも安心して住み良い街になってほしい。  
(女性 50代 江戸川区)
- 「高台まちづくり」は、昔から水害が懸念されている地域でも安全に暮らすことができるようになるので、素晴らしい政策だと思いました。都内には海拔の低い地域も多いですし、最近では気候変動でゲリラ豪雨なども多いので、浸水などについて考えていくことは、とても大切なことだと思いました。  
(女性 50代 板橋区)
- 高台まちづくりは、都民の意見を聞く機会を多くしてほしい。  
(女性 70歳以上 江東区)

#### (4) 事前復興に関すること 22件

- 事前復興というワードを初めて聞いたので勉強になった。能登半島地震や東日本大震災など様々な地震を経験している日本だからこそ、それを活かした取り組みをすることが重要だと思った。

(女性 20代 台東区)

- 都市の事前復興については今回はじめて知ったが、災害前から万が一災害が起こった後の復興のあり方を議論することはとても大切であり本当に必要になった際には復興のスピードや内容にも大きく関係してくると思った。

(女性 30代 世田谷区)

- 都市の事前復興は非常に重要な考え方だと思うので、どのような都市を目指していくのかというランドデザインも勘案しながら、まちづくりを進めていけると良い。

(男性 30代 島しょ)

- 事前復興について対策がされていることをあまり知らなかった。もっと関心を持つことの大切さを知った。

(男性 70歳以上 東村山市)